



環境改善目標1 希少植物の生息域外保全

活動の意義と育成する“和の花”について



(フタバアオイ及び) フジバカマ・ヒオウギ・
キクタニギク・オミナエシ・ワレモコウ・
ノカンゾウ・タムラソウ

(公財)京都市都市緑化協会
(佐藤正吾)

活動の背景

希少になっていく自生植物

京都府レッドデータブック（RDB）2015年版では、以前より絶滅の危険性が高いカテゴリ（区分）にランクが引き上げられた植物が数多くある。

京都府RDB(2015)に掲載された種子植物

絶滅種	45種	(02年版 62種)	減▼
絶滅寸前種	222種	(〃 157種)	増▲
絶滅危惧種	224種	(〃 141種)	増▲
準絶滅危惧種	182種	(〃 142種)	増▲
要注目種	75種	(〃 54種)	増▲

京都府内の種子植物の総数(推計)は約2,350種で、「総数の約31.8%がノミネートされたことになる。これは全国的に見ても非常に高い数値(前回は約24.2%)」

消える秋の七草 (七種) ありふれていた植物が消えていく

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花
——山上憶良 (万葉集・卷八)



ハギ(マメ科、写真は
ナンテンハギ)



カワラナデシコ (ナデシコ科)
京都府RD記載ないが減少



フジバカマ (キク科)
京都府RDB:絶滅寸前種



ススキ(イネ科)



クズ(マメ科)



オミナエシ (スイカズラ科)
京都府RDB:準絶滅危惧種



キキョウ (キキョウ科)
京都府RDB:絶滅寸前種

希少生物の保全 2つの方法

希少な生物(植物)の保全には、2通りの方法があります。基本的には生息域内保全が望ましいのですが、自生地の環境が大きく変化している中での緊急的な措置として、また、生息域内保全に至るまでの手段として、生息域外保全はますます重要となっています。

生息域内保全 (自生地の生態系の中での保全)

(例) 里地・里山の管理と利用、獣害対策(シカによる食害は京都では特に深刻)、外来種(国外・国内)の駆除、水質保全……

生息域外保全 (自生地ではない場所での保全)

(例) 系統保存(優良な少数の株を細く長く保存)、園芸的な保存(植物に親しむ生活文化を背景にした園芸家等による栽培)、種子保存、バイオ技術による培養……

※市街地では、容器栽培(鉢植え)での育成も有効。繁殖技術も大切。

国際自然保護連合 IUCN/SSC(2014)

生息域外管理は、生息域内管理を補完するツールとなり、非常に重要な役割を担う可能性がある。

IUCN/SSC(2014): Guidelines on the Use of *Ex Situ* Management for Species Conservation Version 2.0, IUCN Species Survival Commission, Gland, Switzerland

生息域外保全の重要性と留意点

国レベル(環境省)

「種^種の保存法」を改正(2017)。指定種の生息域外保全支援等の事業を強化。このうち植物種は122種。

◆環境省と(公社)日本植物園協会の協定 (2017年)

生息域外保全の実施状況に関する情報の共有、種子保存、繁殖技術等の確立、自生地情報・遺伝情報の整備、野生復帰の研究等について植物園のネットワークを通じて連携・協力

2017年度～ 「希少野生植物の生息域外保全検討実施業務」

各都市(自治体)レベル

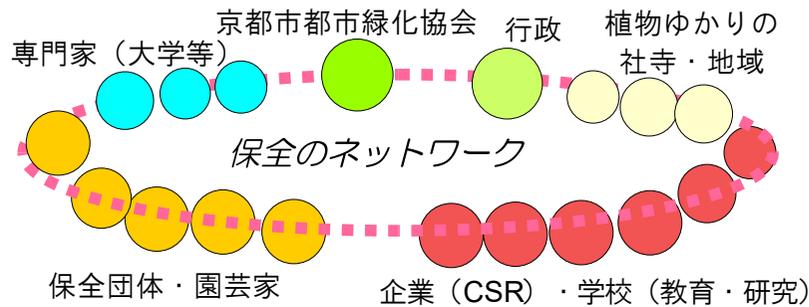
ローカルなレベルで絶滅の危険度が高い種が、種の保存法指定種の数よりもさらに多数存在する。特に「秋の七草」のように、身近にありふれていたのに近年急速に失われているローカルな絶滅危惧種を掬(すく)い上げることが重要。(京都では歴史文化的な背景から、重要性に気付いている関係者は多い。)

留意点 ある植物について、現在も自生地があるにも関わらず、「同じ種だから」という理由で他の地域から持ち込むと、その自生地の植物群落の遺伝的固有性(多様性)を脅かすことになりかねません。ローカルに見れば、「生息域外」に持ち出した植物が、場合によっては「外来種」(国内外来種)ともなりうることに注意する必要があります。 ⇒「逸出」を防ぎ、第三者への譲渡は抑制的に

ネットワークで行う意義

～危険分散・まちに広げる・関心を高める～

- ◆ 身近（都市）で行う栽培……危険分散、レフュジア（避難地）



ネットワークのイメージ

【事務局】京のアジェンダ21フォーラム KES環境機構
京都市都市緑化協会 京都駅ビル開発 京都市

- ◆ 社内・社外での広報（都市と生き物との関係に関心を高めていただく）
- ◆ （可能であれば）さらに自社緑化や都市の外での活動のきっかけに

希少植物保全の活動（緑化協会の例）



京都新聞 2013年10月28日



2020年度に取り扱う植物の紹介

植物1 フタバアオイ (ウマノスズクサ科 多年草)

※フタバアオイについては、
(一財)葵プロジェクトの資料をご覧ください。



上賀茂神社での「葵里帰り式」
の様子(2019年)

植物2 フジバカマ (キク科 多年草)



学名 *Eupatorium japonicum*

源氏物語にたびたび登場する秋の七種(七草)の一つ。水辺を好みますが、現在、自生地はごく限られます。

葉には独特の芳香(クマリン)があり、香料や薬用にされ、古代から貴族の男女が衣服や髪にしのばせていました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。

環境省RDB: 準絶滅危惧(NC)

京都府RDB: 絶滅寸前種

秋の七種 (七草)

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花

トピック

——山上憶良 (万葉集)

同じ万葉集では、元号「令和」の出典とされる「梅花の歌三十二首」の序(巻五)に「蘭」(らん)という別名でも登場します。

「初春の令月にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香を薰(かおら)す」

中西進(1978)、「万葉集 全訳注原文付(一)」、講談社文庫(1978第1刷、2013年第48刷)

藤袴と和の花展（梅小路公園） 2009年秋～

1998年に数十年ぶりに市内で見つかった株を西京区の藤井肇氏が域外保全。これを元に、KBS京都・緑化協会が挿し芽、鉢植えで保全し毎年秋に展示している。



休耕田を利用した保全



嵯峨水尾（右京区）



大原野（西京区）

鉢を街中で飾ると風景に



2010年 御池通

和名フジバカマには2種あり、自生種（写真左）の保全育成に努めています。



自生種

Eupatorium japonicum

水田や河川・湖沼の水辺
(草地)に自生

京都府RDB絶滅寸前種



一般に流通

Eupatorium fortunei

全体に小振りで扱いやすく、
庭の植栽や切り花などに使
われる

両者はシノニム（別名）でなく、別種と考えられる（村田源氏）

フジバカマに訪花する渡りの蝶 アサギマダラ



フジバカマの蜜を求めて、秋に北の地方から飛来します。蜜の成分を使って性フェロモンをつくるために、特にオスが多くやってきます。

渡りのルートを明らかにするため、マーキング調査が行われています。京都市からも台湾まで渡った個体がいくつも確認されています。

写真(上)は、数日前に滋賀県で捕獲され、水尾(右京区)で見つかった個体
(撮影: 秦賢二氏)



植物3 ヒオウギ

(アヤメ科 多年草)

学名 *Iris domestica*



日本のほか、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドなどにも広く分布します。

7月中旬ころから、祇園祭に合わせるように花茎がするすると伸び、赤い花を咲かせます。厄除け、魔除けとして街で飾られ、根茎は、風邪などに効く生薬「射干」(やかん)として重宝されました。名の由来は、葉の様子が木製の「檜扇」に似ているためとも、「緋扇」とも。

環境省RDB: 記載なし

京都府RDB: 準絶滅危惧種

注目

ダルマヒオウギ (右)

祇園祭の「屏風祭り」で一般に飾られるのは、ヒオウギの変種ダルマヒオウギ(宮津市産が有名)。花色、葉の形は様々で、草丈は低く屋内の飾りに適しています。



ヒオウギの種子 むばたま、うばたま、むばたま (射干玉、烏羽玉)

漆黒で、黒髪のように艶があることから、
黒、髪、夜、夢などにかかる枕詞に。



茶菓子のモチーフにも。



和名の由来となっ
た飾り檜扇（ひお
うぎ）の例

うばたまの 我が黒髪や かはるらむ
鏡のかげに 降れる白雪

——紀貫之（古今和歌集四六〇）
※かみやかは（紙屋川）が読み込まれている。

ぬばたまの 夜の更けぬれば 久木生うる
清き川原に 千鳥しば鳴く
——山部赤人（万葉集九二五）
ひさぎ

植物4 キクタニギク (キク科 多年草)



がけ地に自生するキクタニギク (西山)

学名 *Chrysanthemum seticuspe* (f. *boreale*)

本州・九州・四国の一部の府県、朝鮮半島・中国大陸(北部・東北部)に分布。

京都の東山から流れ出る菊溪(菊谷)川の河川敷に自生していたのが和名の由来ですが、現在、東山では確認できません。

晩秋に明るい小さな花を次々と咲かせ、別名アワコガネギクとも。若葉は清々しい香りがします。花から精油をとって香料にしたり、江戸時代には油漬けにして傷薬にしました。

菊溪は、江戸期の名所案内に数多く登場。本居宣長が没年に「古の人に契りを結びみん 住みける跡ときくの谷水」と読むなど、全国から多くの文人が訪れました。

環境省RDB：準絶滅危惧 (NT)

京都府RDB：絶滅危惧種

トピック

広義キク属のモデル生物 広島大学等による国家プロジェクト「NBRP広義キク属」が進展。純系化されたモデル系統がゲノム解析され、広義キク属のモデル生物に位置付けられました。

「キクタニギクの花咲く菊溪の森づくり」(京都伝統文化の森推進協議会)

地域性種苗(イロハモミジなど苗木とキクタニギク)の育成から植栽までの流れ(KESネットワークとの関係) 「四季彩りのもりづくりだより」 No.5 より

キクタニギクの花咲く菊溪川の再生へ

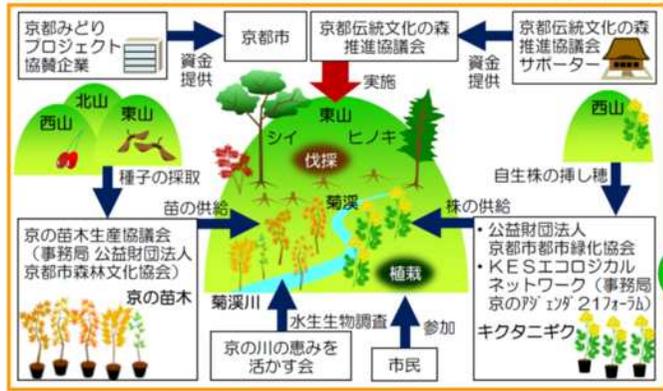
京都伝統文化の森推進協議会(略称:伝文)と連携し、シイ林の林相改善事業(H19~)の一環として、キクタニギクの花咲く菊溪川の再生を目指しています。

市民、地域、企業の皆様との協働により、シイやヒノキなどの光を遮る常緑高木を約80本伐採し、平成29年3月4日には、明るくなった菊溪に、キクタニギク50株や、ムラサキシキブなどの「京の苗木」5種類約80本を植栽しました。今回、キクタニギクの株は、KESエコロジカルネットワーク参画企業11社からも提供いただきました。

また、「京の川の恵みを活かす会」に協力いただき、今後の菊溪における水生生物相の変化を把握するため、伐採前の水生生物の生息状況を調査しました。

キクタニギクの株の提供企業

京都生活協同組合、株式会社元奈古、日本新葉株式会社、光星電工株式会社、武村建設株式会社、吉田商事株式会社、アール・エス・ティンダ・コリダ 株式会社、阪神トラック株式会社、株式会社西川製作所、株式会社三協電機製作所、株式会社吉川工務店



協働の森づくりイメージ

H28~



伐採前の菊溪



伐採後の菊溪



約110名が参加し、キクタニギク等を植栽



※ キクタニギクは、花言葉「押し合わず」「寄り添うように」とあるように、11月頃、小さな黄金色の花をたくさん咲かせる野菊です。乾いた崖などに生える多年草で、日当たりを好みます。和名は、かつての菊の名所「菊溪(菊谷)」に由来しますが、京都府レッドデータブック2015では、絶滅危惧種に区分され、「和名のもとになった京都市東山区菊谷では絶滅」と記されています。

伝文では、調査、案内などの森づくり活動や京都三山を学ぶ公開セミナーなどの参加者を募集しています。詳しくは [京都伝統文化の森](#) 検索



同協議会により、2017年より **KESネットワークからの提供株** を共同で植栽する作業が行われている。

植物5 オミナエシ (旧オミナエシ科・スイカズラ科 多年草)



学名 *Patrinia scabiosifolia*

秋の七草の一つ。北海道～九州、朝鮮半島、中国東北部、台湾、千島、サハリン、東シベリアに分布。日当りの良いやや湿った山野に自生。

別名「あわばな」のとおり、茎の先に、粟粒ほどの細かい花が集まって咲きます。優美な姿から、文芸作品にも数多く登場します。

盆花に使うほか、乾燥した根、茎、花は、解熱、消炎、解毒に効く生薬「敗醬」(はいしょう)となります。京都では越畑(右京区)が切花の産地として有名。



環境省RDB: 記載なし

京都府RDB: 準絶滅危惧種

(京都府では2002年版の「要注目種」から2ランクアップ)

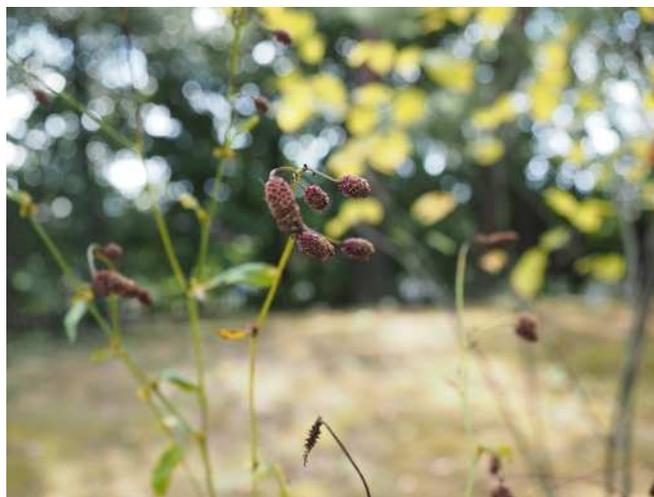
注目

やや大型で白い花を咲かせる近縁種オトコエシ(男郎花)と対をなします。



オトコエシ

植物6 ワレモコウ (バラ科 多年草)



学名 *Sanguisorba officinalis*

秋に紅紫色の穂状の小さな花をつけます。草丈は70cm～100cmほどで、時に2m近くなるものもあります。葉は楕円形で縁に鋸歯があります。

東アジア、シベリア、欧州に広く分布します。京都周辺では、北山、西山の棚田など湿った丘陵で見かけられましたが、自生地が急激に減っています。

環境省RDB: 記載なし

京都府DRB: 記載なし

和名の由来には諸説ありますが、『源氏物語』が初出とされ、平安期の京都で定着した名のようにです。

注目 有用植物としてのワレモコウ

- ・生薬 根茎を天日乾燥させたものは、生薬「地榆」(チュ、ジユ)となり、吐血、下痢、やけどなどに
- ・医薬部外品 エキスが、薬用せっけん、育毛剤、薬用はみがき類、浴用剤などに
- ・食用 春の若い葉を湯がいて食用に
このほか、わびさびを感じさせる地味な姿や色合いから、茶花、生け花、盆花としてよく使われます。



植物7 ノカンゾウ

(ススキノキ科またはワスレグサ科
多年草)



学名 *Hemerocallis fulva* var. *longituba*

7～8月にユリに似た、オレンジ～赤色の大きな一重の花を咲かせます。本州以南、朝鮮半島、中国大陸北部に分布。京都府内では田のあぜ、堤防の草地などに分布していましたが、草刈りがなされないなどが原因で急激に自生地が失われました。

環境省RDB: 記載なし

京都府RDB: 絶滅危惧種(2002年版ではランク外)

「忘れ草」の別名で古くから親しまれ、新芽を食べる、あるいは、植えたり、身につけると、「憂さ、人恋しさを忘れられる」と信じられました。

中部以北の湿地に生えるニッコウキスゲなど多くの変種や栽培品種を含む、ヘメロカリス(ワスレグサ属)の仲間です。

ノカンゾウによく似たヤブカンゾウは中国大陸原産で、八重咲きです。ノカンゾウと異なり、種子をつけないため、奈良時代以前に渡来し、有用植物として人々が各地に運んだと見られます。

注目

ノカンゾウ、ヤブカンゾウとも、つぼみを摘み、蒸して天日干したものが、風邪、不眠症などに効く生薬「金針菜」になります。



ニッコウキスゲ

植物 8 タムラソウ (キク科 多年草) 新規



学名 *Serratula coronata* subsp. *insularis*

日当たりの良い山地の草原や林縁に生え、草丈は30cmから、環境によっては大きなもので1.5mにもなります。

晩夏から秋(8~10月)にかけ、紅紫~薄紫色の花を咲かせます。一見、アザミ類によく似ています。しかし、茎や葉にトゲがないため扱いやすく、花も優美なため、生け花、茶花、庭の植栽に使われています。葉は羽状に切れ込み、茎の下部では大きく上部では小さくなります。地方によっては若葉が食用になりました。

名の由来はなぞです。同じく秋に花が咲くアキノタムラソウや、その近縁のタジマタムラソウなどはシソ科で、全く別の植物です。タムラソウの別名「タマボウキ」は、コウヤボウキ(キク科の低木)の別名でもあります。

注目

タムラソウは本州、四国、九州、朝鮮半島に分布しますが西日本を中心とする都道府県RDBの掲載が増えており、京都でも見られなくなりつつあります。基本(亜)種のマンシュウタムラソウ(及びその近縁種)はシベリア、中国大陸、欧州まで非常に広く分布し、中国では薬用にされています。

。 **環境省RDB**: 記載なし

京都府RDB: 記載なし



ご案内

和の花など緑に関するご相談

(公財)京都市都市緑化協会では、緑に関するご相談を受け付けています(無料)。KESエコロジカルネットワークで取り扱う「和の花」の育て方や、その他「緑」に関するご相談がありましたら、お気軽にご相談ください。

■ 育成の仕方について

花とみどりの相談所(梅小路公園内)

水曜日・土曜日 10～12時、13時～16時(年末年始をのぞく。)

TEL 075-561-1980

■ 保全・活用、緑のボランティア活動などについて

都市緑化・緑のまちづくり支援担当

月～土曜日 9～12時、13時～17時(年末年始をのぞく。)

TEL 075-561-1350／352-2535

(公財)京都市都市緑化協会